

1：職務の理解		6時間	ねらい
第1章	職務の理解 多様なサービスの理解／介護の業務／キャリアパスと介護職員初任者研修／OJT・Off-JTを通じた学習の継続		介護職の実態を身近な例を参照しながら説明し、なるべく具体的なイメージを持った上で自身の就業の適性についても合わせながら以後の研修に取り組めるようにする。
2：介護における尊厳の保持・自立支		通学15時間 通信7.5時間	
第1章	人権と尊厳を支える介護 人間の尊厳と自立／ノーマライゼーションの意義／個人の尊厳と法制度 高齢者虐待／利用者の尊厳の保持		介護職の基本的概念である「自立支援」及び利用者の尊厳について、多くの具体例に沿って解説し、人権、QOL、ICF、ノーマライゼーションなど介護現場で多様される語句についての認識を各々確固たるものにし、介護・福祉サービスの基本視点をについて理解する。
第2章	自立に向けた介護 介護サービスの社会的役割／福祉理念と介護サービスの意義／サービス提供の基本点／あるべき主体的な生活／要介護状態の原因疾患／介護予防とは／介護予防活動の目標／介護予防活動を支える5つの考え方について		
3：介護の基本		通学3時間 通信3時間	
第1章	介護職の役割、専門性と多職種との連携 介護環境の理解／地域包括ケアの方向性／専門職としての介護の視点／チームアプローチの実際／利用者を取り巻く多職種連携／多職種連携による役割分担		実際の就業時の観点から介護職の種類、専門性、他職種との連携について解説し、それに伴う職業倫理、社会的責任についても理解する。
第2章	介護職の職業倫理 介護サービスの公共性／介護職としての倫理の必要性／利用者・家族との関係／利用者の自己決定の尊重／倫理と規範／規定されている倫理／日本介護福祉士会倫理綱領		
第3章	介護職における安全の確保とリスクマネジメント サービス提供と安全管理体制／事故の分類と実例／リスクマネジメント／事故発生時の対応／感染の原因と経路／感染源の排除、感染経路の遮断／感染症の治療／スタンダードプリコーション／手洗い／手袋／うがい／マスク・エプロン／洗浄と消毒／環境整備／入浴／隔離		介護に於けるリスクとハザード、それに対するリスクマネジメント、危機管理について実例に沿って解説する。また、介護職員の心身の健康管理の重要性についても概説する。
第4章	介護職員の安全衛生 介護職の健康管理／身体的疲労／権利と労働法／介護職と労働法／訪問介護員の労働時間として認められる業務		
4：介護福祉サービスの理解と医療との連携		通学1.5時間 通信7.5時間	
第1章	介護保険制度 介護保険制度創設の背景／介護保険制度創設までの経緯／制度施工後の状況 制度の目的／制度の基本的仕組み／保険給付とその種類／要介護、要支援の認定の手順／利用者負担／地域支援事業所／制度を支える組織・団体一全体の姿 サービス提供事業者／介護支援専門員／介護保険財政／介護保険制度におけるケアマネジメントとは／居宅サービスにかかるケアマネジメントのプロセス		介護の対象となる高齢者への支援の上で根幹となる「介護保険制度」について、理念、制度のあらまし、運営実態、医療など組織や人々の関わりなどの理解を徹底する。
第2章	医療との連携とリハビリテーション 医行為と非医行為の範囲／医行為の介護者への対応／疾病構造の変化と高齢化 介護サービス利用者から見た医療の現在／ケアを提供する人から見た在宅医療の現在／ケアにおける連携の特徴／在宅ケアでの連携の例／連携の要はコミュニケーション／ケアにおける連携の工夫／リハビリテーションの理念と目的／リハビリテーショ		

	ン医療の課程	
第3章	障害者自立支援制度及びその他制度 障害者の自立と社会参加/法制度の理念と障害の概念/障害者総合支援法の概要 障害者総合支援法の仕組み/個人情報保護法/成年後見制度/日常生活自立支援事業	障害者総合支援法の基本的概念、介護を取り巻く基本的な法整備を理解する。

5：介護におけるコミュニケーション技術		通学3時間 通信3時間
第1章	介護におけるコミュニケーション 生活場面におけるコミュニケーション/相談援助技術の重要性/利用者の心理とコミュニケーション/家族とのコミュニケーション/言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション 失語症・構音障害者とのコミュニケーション/認知症に応じたコミュニケーション技術	介護に於いてまず学ぶべき、利用者やその家族とのコミュニケーションについて、具体的な方法論を踏まえた上で、自己表現も含めた実質的なトレーニングを織り交ぜながら体得する。
第2章	介護におけるチームのコミュニケーション チームアプローチのルーツ/チームアプローチの効果と意義/介護職と記録/報告・連絡 相談/共感的理解とコミュニケーション/情報の共有とチーム内コミュニケーション	介護現場に於ける同僚や利用者に関わる保険・医療・福祉関係者とのコミュニケーション、報告、連絡、相談方法について、具体的な作成書類の記入例などを事例に挙げながら学習する。

6：老化の理解		通学3時間 通信3時間
第1章	老化に伴うこころとからだの変化と日常 感覚、知覚の変化/注意力の変化と反応の変化/記憶の変化/知能の変化・感情の変化/性格の変化/加齢の生理学	加齢、老化に伴うこころと体の変化について、その特徴、具体例を示しながら疾病などの生理的な側面から理解し、その対応についての留意点を学習する。
第2章	高齢者と健康 身体的・精神的機能の変化と病気、日常生活への影響/主な症状とチェックポイント 生活習慣病とメタボリックシンドローム/高血圧と糖尿病/循環器系の病気(循環器障害)/呼吸器の病気/消化器の病気/代謝・内分泌の病気/脳血管系の病気/運動器の病気/アレルギー・膠原病・免疫の病気/血液の病気/腎臓・泌尿器の病気/心の病気/眼の病気/耳、鼻、喉の病気/皮膚の病気/歯、口腔、顎の病気/感染による病気/介護保険の特定疾病	

7：認知症の理解		通学3時間 通信3時間
第1章	認知症を取り巻く状況 認知証介護の基本原則/最新の認知症ケア	介護に於いて認知症を理解することは必須であり、その重要性の認識を確固たるものとするため、医学的見地から始まり、その症状の把握から生活環境の意義などを通じて認知症ケアの理念、健康管理の重要性、傾聴・共感的理解など具体的対応方法、家族への配慮などを学習する。
第2章	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 認知症とは何か/物忘れと認知症との違い/認知症の初期症状/認知症の診察と 認知症の種類と原因/アルツハイマー型認知症/血管性認知症/レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症/その他の認知症/認知症の中核症状/認知症の行動・心理症状 中核症状の薬物療法/行動・心理症状の薬物療法	
第3章	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 行動・心理症状の具体的対応/日常生活支援の基本的対応/環境整備と基本的対応 心理学的援助方法論	
第4章	家族への支援 家族介護者の介護負担/認知症のケアとは/家族介護者のできること/「認知症と生きる私」の声を心を澄ませて聞いて下さい/当事者や介護家族の思いに見る諸相団	

認知症との出会い、その支援について/介護者を巡る“三つの修羅場”/家族の願い
在宅介護者への休息と癒しと、そして安心をレスパイトケアの充実を願って-

8：障害の理解

通学1.5時間
通信1.5時間

第1章	障害の基礎的理解 障害とは/障害の構造/障害の受容/ノーマライゼーションの概念/リハビリテーションとは インクルージョンとは
第2章	障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 視覚障害/聴覚障害/平衡機能障害/音声障害、言語障害/咀嚼障害/肢体不内部 障害/知的障害者の生活困難/知的障害者の心理と行動特徴/知的障害者支援/ 精神疾患/高次脳機能障害/発達障害/難病とはどのような病気か/難病の特徴 主な難病/難病患者の生活上の障害/難病患者の心理の実際/難病の治療について おわりに
第3章	家族の心理、かかわり支援の理解 障害の理解・障害の受容支援

障害の概念とICFの基本的な考え方について身体障害、知的障害、精神障害など障害の種類と夫々の内容・特徴を踏まえて理解する。その上で高齢者介護との違い、ノーマライゼーションの理念から障害者(児)の介護、法律や制度について学習する。

9：こころとからだのしくみと生活支援技術

通学63時間
通信12時間

基本知識の学習	
第1章	介護の基本的な考え方 理論と法的根拠に基づく介護/基本的な介護技術の原則/介護保険制度下の介護 保険サービス/予防重視型システムの全体像/介護予防を重視する背景/介護予防 プログラム
第2章	介護に関する心のしくみの基礎的理解 加齢に伴う変化とその心理/高齢期のパーソナリティと適応/高齢期の喪失体験 自己概念と生きがい/生きがいと
第3章	介護に関するからだのしくみの基礎的理解 人体各部の名称/人体各部の働き/骨、関節、筋に関する基礎知識/身体の動き の基本/ボディメカニクスの原則と介護への活用/中枢神経系/末梢神経系/脈拍・ 心拍・血圧/体温/呼吸
生活支援技術の学習	
第4章	生活と家事 家事援助の必要性と目的/信頼関係の構築と秘密保持/利用者の価値観に合わせ た生活/調理/掃除/洗濯/被服の補修
第5章	快適な居住環境の整備と介護 住宅の役割と機能/家庭内に多い事故/高齢者・障害者にとって快適な住まい/住宅 の汚れと掃除/福祉用具の活用にあたって/福祉用具とその活用方法
第6章	整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 整容の意味/整容行動の仕組み/衣類の着脱のもつ意味/衣類の着脱介護

これまで座学で学んできたことのまとめ、復習をしながら専門職として介護を行う時の心構え、法律上の規定、目的、倫理、業務の基礎について具体的に把握する。

介護業務を実践するにあたり、まず利用者のこころのありようを把握することの重要性を認識し、その方法について具体例を交えながら学習する。

利用者、介護員双方にとって安全で安楽な介護を実践するため、人体の構造やその仕組み、働きについて十分な知識と理解を得る学習をする。その後演習に備えバイタルサインの確認、ボディメカニクスの活用を十分に理解する。

介護の基本である家事サービスを専門職として提供するため、訪問介護サービスのなかから見えてくる「生活支援」の観点より実例を示しながら学習し、また、自立支援、ADL、QOL向上のための手段としての居住環境整備、福祉用具の活用についてもなるべく実体験をしながら学習する。

第7章	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 体位・姿勢のもつ意味/体位・姿勢介護/褥瘡の予防/移乗のもつ意味/移乗の車いす移動のもつ意味/車いす移動の介護/移動のもつ意味/外出の介護(移動と肢体不自由者の歩行介助)/視覚障害者の歩行の介助	それぞれの項目における介護業務の実践を、各人従業者、利用者の立場になっての反復練習から基本的な介護技術を演習し、加えて様々な場面における応用技術についても実例をもとにしながら演習を重ね、実務に則した介護技術を体得する。	
第8章	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 食事をする意味/食事の生理的な仕組み/食事の介護/口腔ケアの意義/口腔の仕組みとはたらき/口腔ケアの基本/口腔ケアの実際		
第9章	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 入浴のもつ意味/清潔保持の意味/清潔保持のための行動の仕組み/入浴の介護と身体の清潔の介護/洗面の意義、効果		
第10章	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 排泄の介護のもつ意味/排泄の仕組み/排泄の介護		
第11章	睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 睡眠の意味/睡眠の仕組み/睡眠の状態と睡眠障害の原因把握/安眠への支援と安眠のための介護の工夫/寝具の整え方のもつ意味/寝具の整え方の介護		
第12章	死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護 終末期に関する基礎知識/終末期のところとからだのしくみ-変化と対応-/緩和ケア 家族へのケア/看取り介護の意義/看取りの目的/看取り介護の目標と介護従事者の基本的態度/介護の役割と医療職との連携		介護従業者の終末期ケアにおける利用者及びその家族に対する基本的態度、医療、看護との連携、死生観の認識について学習する。
生活支援技術演習			
第13章	介護過程の基礎的理解 介護過程の基礎的理解/介護過程の展開の実際		具体的事例を設定した上で、それに則した一連の介護業務を各々が演習しながら抜本的に留意点、改善点を確認し合い、応用力のあるより実践的な介護業務を行える技術を体得する。
第14章	総合生活支援技術演習 演習の事例		

10：振り返り		4時間
研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再認識を行うと共に、就業後も継続して学習する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。		
第1章	振り返り 学習到達度の振り返り	介護業務における基本的態度の再確認を行った上、各受講生がこれまでに学んだこと、これから学ぶべきことを発表し合い、お互いに再確認しながら福祉、介護業務に就く心構えを確かなものにしていく。様々な介護、福祉現場の勤務形態や今後付随する可能性のある研修などについて、また就業後の介護職のスキルアップの課程についても具体的に解説する。
第2章	就業への備えと研修終了後における継続的な研修 介護人材の将来見通し/国の取り組み/キャリアパスの全体像/専門職としての心構え/チームケアの一員としての心構え/事業所におけるOJT/継続した学習の必要性/介護保険制度の期待に応えるために/介護プロフェッショナル・キャリア段位制度	